

博物館だより

NO.26

SUITA CITY MUSEUM

速報

千里ニュータウンが博物館にやってきた!!

(千里ニュータウン展特集号)

懐かしのオート三輪。ミゼットもやってきた。



(ダイハツ・ミゼット 笹部 肇氏所蔵)

1960年代、軽三輪ブームの火付け役だったミゼット。団塊だんかいの世代以上の方には懐なつかしい限りでしょう。

エンジン305cc、とにかくコンパクト。二人乗りで荷台つき。ヘッドライトを目に見立てると、とぼけたワンちゃんの顔にも似て可愛らしい車でした。でも、急カーブでは気をつけて!しばしば転倒シーンも目撃されていたようです。

「ミゼット!ミゼット!」と連呼していた大村崑さんと佐々十郎さんのテレビCMをご記憶の方も多いのでは・・・。

千里ニュータウン開発当初、新住民たちの引越しにも大いに活躍したとか。

千里ニュータウン展イベントスケジュール 楽しいイベントがいっぱい！

- 4月29日(土) 14時 トークショー 小池 清さん (元MBSアナウンサー)
「千里丘スタジオから見た千里ニュータウン」
- 5月6日(土) 14時 トークショー 程一彦さん (料理研究家)
「60年代と今の食文化—食の養生訓」
ようじょうくん
- 5月13日(土) 14時 講演会 椎名 誠さん (作家・写真家)
「わしも環境を考えるのだ—あそこ、海・山・川は美しかった」
- 5月20日(土) 14時 トークショー 諸口あきらさん (画家・フォークシンガー)
「60年代の音楽シーン」 ゲスト：久保比呂誌さん

※椎名誠氏講演会は、2週間前(4月29日)までに、はがき又はファックスで博物館へ

おでかけイベント 千里再発見

- ① 4月23日(日)=歩く・千里中央から上新田。セルシー2階みずほ信託銀行前集合、南千里駅解散。
- ② 4月26日(水)=渡り鳥観察・紫金山公園一帯。博物館前集合。(雨天の場合は翌日)
- ③ 4月29日(土・祝)=歩く・古江台・太陽光市民発電所や竹林。セルシー2階みずほ信託銀行前集合、
阪急山田駅解散。
- ④ 5月5日(金・祝)=探訪・千里南公園の文化探訪と拓本体験。千里南公園南西入り口集合。
- ⑤ 5月6日(土)=歩く・北千里周辺の池や里山・公園。北千里駅改札前集合、同駅解散。
- ⑥ 5月13日(土)=サイクリング・公園・住宅地・近隣センター。千里南公園南西入り口集合、博物館解散。
- ⑦ 5月14日(日)=歩く・ヒメボタルの生息地、千里緑地。南千里駅改札前集合、博物館解散。
- ⑧ 5月20日(土)=探訪・千里南公園の文化探訪と拓本体験。千里南公園南西入り口集合。
- ⑨ 5月21日(日)=歩く・大正末期のニュータウンと古いまちなみ。千里山駅西改札前集合、博物館解散。
- ⑩ 5月27日(土)=歩く・計画的な住区と民間開発の商業地。南千里駅改札前集合、博物館解散。

いずれも午前9時30分集合、正午ごろ解散。②は午前7時30分集合、10時ごろ解散。④⑧拓本体験者は午後4時ごろ博物館にて解散。昼食持参。

費用/200円。申し込み/はがきまたは、ファックスに、参加希望日、住所、名前、年齢、電話番号を書いて、開催日の10日前までに博物館へ。

千里を学ぼう！ ニュータウンを考えよう！

- 4月22日(土) 14:00 記念講演 鷺田清一さん(大阪大学副学長)
「千里は千里眼をもてたか？」
- 23日(日) 14:00 講演 片寄俊秀さん
(大阪人間科学大学教授)
「千里ニュータウンの開発理念と花鳥風月のまちづくり」
- 15:30 フォーラム千里市民代表と市長
「まち開き当時を語る・憧れのニュータウンに住んで」
- 25日(火) 13:30 女性フォーラム
「女性で語る千里ニュータウンー住みよい街にするために」
- 27日(木) 14:00 博物館トーク(学芸員)
「千里ニュータウンの心の地図」
- 28日(金) 14:00 博物館トーク(学芸員)
「千里ニュータウンその失われたもの」
- 30日(日) 14:00 講演 久隆浩さん(近畿大学教授)
「新しい千里ニュータウンのまちづくり」
ヤングフォーラム千里在住の青年代表
「若者の力で夢のあるまちづくり」
- 5月12日(金) 13:30 博物館トーク 北田順三さん
(新聞「千里」元編集長)
「千里の古地図と素敵な小径
ーニュータウン建設の秘話もまじえて」
博物館トーク 清水勝弘さん
(日本万国博覧会機構事業部長)
「千里ニュータウンのもうひとつの自然
ー万博記念公園」
- ・自然保護・環境保全団体によるパネル展示(～13日)
- 13日(土) 10:00 フォーラム自然に関する活動団体代表
「千里ニュータウンにはこんな自然が」
- 21日(日) 13:30 講演 大久保昌一さん(大阪大学名誉教授)
「千里ニュータウンの過去・現在・未来」
シンポジウム「千里ニュータウンの計画と
現在・未来への再設計」
宗田好史さん(京都府立大学助教授)
藤本佳子さん(千里金蘭大学教授)
藤本英子さん(京都市立芸術大学助教授)
鈴木 毅さん(大阪大学助教授)
- 28日(日) 14:30 トークショー「おふるについて話そう」
おかきたまりさん(お風呂研究者)
遠藤眞吾さん
(エア・ウォーター・エモト元副社長)
小山修三館長
- 6月3日(土) 14:00 講演 畑 祥雄さん
(彩都IMI大学院スクール総合監督)
「グレータ千里」
- 4日(日) 14:00 討論会 今回の企画に関わった
市民委員代表による
「千里ニュータウン展に参加して」

「食」のイベント 食べてみよう！

- 5月6日(土) 15:30 「程さんの餃子」まつり
- 14日(日) 11:00 母の日「お母さんのカレー」まつり
(ABCラジオ協賛)
「ワンダーフォーと歌おう！
おなががスイタラ、ボンカレー」
(ボンカレーの大塚食品協賛)

音楽・演劇 聞いてみよう! 観てみよう!

- 4月22日(土)
10:00 オープニングセレモニー
吹田市消防音楽隊開幕祝賀演奏
- 11:30 和楽器演奏団「独楽」による和太鼓、
津軽三味線演奏会
- 15:15 「千里とうさんコーラス」の合唱
- 5月4日(木・休)
11:00 子どもミュージカル
- 5日(金・祝)
14:00 クラリネット演奏 針山憲夫さん
「唱歌・童謡・日本のうたほか」
- 7日(日)
14:00 みんなで歌おう！
歌声喫茶を再現・塩入哲朗さんと
歌声スタッフ
- 20日(土)
11:30 ロビーコンサート千里バロック合奏団
クラリネット演奏 針山憲夫さん
中華芸術院二胡演奏
- 27日(土)
14:00 サックス演奏 楠山智章さん
「なつかしのジャズ&ポップス」
- 28日(日)
13:00 演劇 劇団にのいち
「バスオールがわが家に来た日」

ゴールデンウィークも お楽しみがいっぱい!

- 5月3日(水・祝)
10:00～15:00
・ワークショップ
(粘土細工・ソーラーバルーン)
・公園発スローライフ・ダンボールで
遊ぼう
・竹みこしで遊ぼう
(～5日・展示は7日まで)
- ・子ども絵画展(～11日)
- 4日(木・休)
10:00～17:00
・公園発スローライフ・ダンボールで
遊ぼう
13:00～15:00
・クラフト体験(竹、わら、紙細工)

※参加費 200円(ワークショップ・スローラ
イフ・クラフト体験)

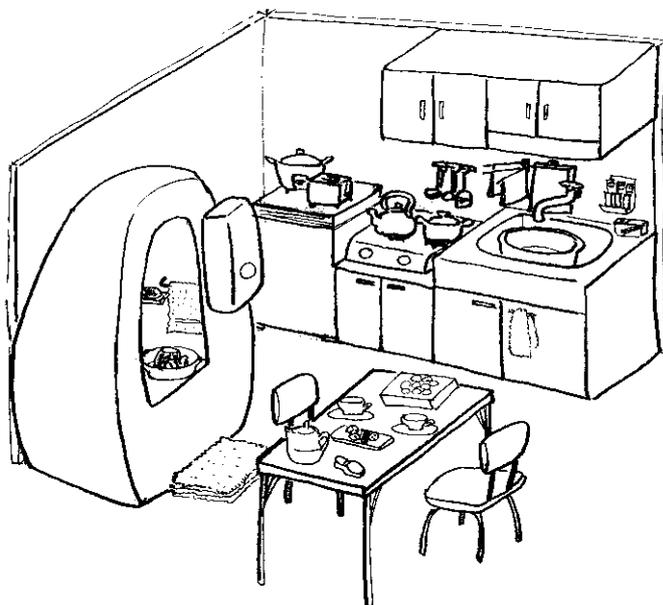
千里ニュータウンお風呂物語

—夢と元気をお届けします！—

ニュータウン展市民委員 おかきたまり

「ホクサンバスオールは現在どこかにありませんか？昔、テラスでお風呂に入っていた話がでて展示できないかと探しています。」わたしが運営するウェブサイト【洗いの殿堂】にとどいた市民委員会スタッフからの投稿にさそわれて、この展示に参加しました。

『バスオール』は、1963年、当時の北海酸素（現在：エア・ウォーター・エモト社）から発売された、たたみ半畳のスペースで置ける簡易型ユニットバス。63000円の価格で、大都市中心にでき始めた風呂のない団地や文化住宅でヒットし約35万台も売れました。千里ニュータウンでも大ブレイク。全体の3分の1にあたる風呂のなかった住宅に内風呂ができるまで、愛用されました。そのかわりに近隣センターにあった10軒の銭湯は1軒をのこすだけとなり、同じころの大阪府下での銭湯数37%減にくらべると、千里ニュータウンの内風呂への強い欲求がうかがえます。



バスオールのある台所のイメージ イラスト（おかきたまり）

混みあう銭湯でベビーベッドを奪いあう母、銭湯がしまる時間までに帰宅できない企業戦士の父、そんな働きざかりの若い二人と幼い子どもの核家族。高度経済成長時代をささえる人たちが集まった千里ニュータウン。住民の方からうかがうエピソードには、2Kの狭さをあきらめずに工夫し、家具みたいな風呂をつかいこなす元気さと、もっと広い内風呂をつくらうという未来への夢がみえました。

この夢と元気をつたえるために、狭いキッチンに工夫をして『バスオール』をおいた生活シーンを再現したいと、多くの市民委員、館長や学芸員が行動しました。街のリサーチ、ユーザーへのヒアリングやアンケート、展示品の収集やスケッチなど。さまざまな力が集まり、千里ニュータウンの記憶をこめたお風呂展示が進んでいます。住民ユーザーの方、協力いただいたメーカーの開発にたずさわった方、館長とのおしゃべりイベントや市民劇団による演劇も上演します。ぜひ、千里ニュータウンの夢と元気をうけとりにおいでください！

お宅にも 幸せを もう一つ！

楽しかった夕食後、悪路を銭湯へ急ぐとき フト「うちにお風呂がほしい」とお思いになったことはありませんか？
マイホームにお風呂がある……………
あたたかい家庭の幸せが家いっばいに満ちています
入浴するたびに「よさ。のわかる
《ほくさんスタンウェルバス》でお宅にも幸せをもう一つプラスしてください
《ほくさんスタンウェルバス》は新しい時代の中に生きる ムダのない家庭風呂です



バスオールのチラシ エア・ウォーター・エモト社提供

サテライト展示のご紹介

団地の一室をまるごと60年代博物館

会期中の土・日・祝日の午後1時～5時にオープン

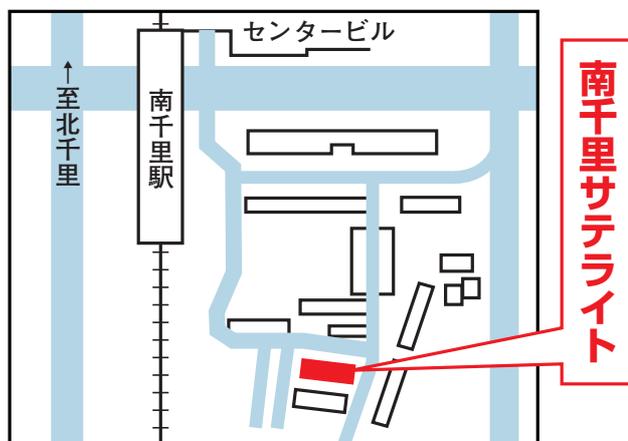
今回の千里ニュータウン展では、博物館でのメイン展示に加えて、南千里にサテライト展示会場を設けました。市民委員さんたちの発想で、画期的な試みです。

実際に千里ニュータウンができた頃の、住まいをまるごと復元しています。

40年の時を超えて、千里ニュータウンの団地空間へタイムスリップ。

これぞまさに体感する展示ではないでしょうか？

ぜひ、のぞいてみてください。



場所＝大阪府住宅供給公社 吹田市佐竹台1丁目4番 A 9 棟102号室

千里ニュータウンに育って

ニュータウン展市民委員 奥居 武

東京オリンピックの「東洋の魔女」の試合の日、5歳だった僕と、父と母は千里ニュータウンに越してきた。僕と父は軽トラックの助手席に乗り込み、母と祖母は文鳥のカゴを持って電車とバスを乗り継ぎ、最後は歩いて、赤茶けた粘土がむき出しの藤白台にたどりついた。父は東洋の魔女の試合が見たくて、すぐにテレビの線をつないでくれと引越し屋さんをせかした。

何もなかった。電車は新千里山（現南千里）止まり。そこから未舗装の道路を揺られても、バスは藤白台の入口まで。坂の下のバス停から、赤茶けた出来かけの道を歩いて上ってこない、家にたどりつかないのだ。小学校もセンターも診療所も古江台にしかなく、幼稚園はスクールバスで高野台まで行かないとなかった。母は坂を下りて坂を上って買物して、また坂を下りて坂を上って…という生活を半年続けた。その頃、母は妊娠していたのに、若かったんだなと思う。藤白台の団地も半分しか出来ていなかった。カーン、カーンと杭を打つ槌音が、毎日こだましていた。谷間のずうううっと向こうまで赤茶けた斜面が見えて、ブルドーザーが走り回っていた。若い夢は荒々しい。その中を引越しの荷物を積んで走ってくるトラックは、アメリカの西部の幌馬車ほろばしゃだった。

北公園の峠を一步越えると、はてしない竹林竹林竹林…で、クルマでそばを通るときは恐くて目をぎゅっつつぶってい

た。中環も新御堂もなく、箕面、千里丘、豊中に抜ける昔からの道は、クルマがすれ違うのもやっとの細さで、夜は真暗だった。

それから万博まではどんどん変わった。1967年春には電車が北千里まで開通した。券売機さえ珍しかった頃、北千里は日本初の自動改札機が設置された駅だった。小学校の先生はその日、パンチ穴の開いた自動改札機用の自分の定期券をうれしそうに見せ、一緒に見学に行っただけで改札を入ったり出たりした。はてしない竹林は、大阪大学や万博会場に姿を変えた。社会見学で山田に行ったとき、銀色にそびえるエキスポタワーを背景に、田んぼの畔道あぜを天秤棒てんびんぼうに肥をかついだおじさんが歩いてきた。まるで同時タイムマシンだった。新しい町ができるたび、バスに乗って見に行った。原野が突然「千里中央」という名前になった。万博の間は日本中の親戚が泊まりに来て、廊下まで布団を敷いて寝た。

万博が終わってから、白っぽかったニュータウンは緑の町に、「陸の孤島」は「憧れの千里」になった。広い道路や公園、立体交差、庭に芝を張った家並みは、最初期と違う意味で「アメリカみたい」と言われた。僕は中学生から高校生になり、ニュータウンで生まれた妹が小学生になり、母は40代、父は50代になっていた。母は北千里のYWCAで英語を教え始めた。大学受験で僕は、出来上がりすぎたニュータウンにずっとはいけない

気がして、東京に進学した。1979年だった。

僕が最終的に藤白台に帰ってきたのは2000年の春だった。ニュータウンにかつての熱気は消え、年老いた静かな町になっていた。やがて母が要介護になった。大きく育った街路樹が紅葉する頃、車椅子を押して見に行ったこともあった。少しずつ母の体調が落ちていく中で、僕は会社で「人口減少社会」の勉強会をすることになった。人口減少なら千里ニュータウンでは30年前に始まっていると発表し、自分の町の取材をすることになったのが今年の9月だった。

10月末、母が亡くなった。大勢の近所の人たちが母を見送ってくださった。41年間、母はこの町で暮らし、英語を教えてきた。76年の生涯の中で、いつのまにか一番長く住んだのは千里ニュータウンになっていたのだ。

その矢先、取材先からこの「千里ニュータウン展」市民委員会の話を聞いた。行って見て驚いた。皆が口角泡を飛ばしながらニュータウンの話をしていて、千里の「夢」は消えてはいなかった。こん



千里中央公園・展望台で 1966.6

なに元気なら、人口減少も高齢化も少子化も少しも恐くはないではないか。同じ町の空気を吸った人たちには、同じ雰囲気がある。僕も町の人たちが喜ぶことを、少しでもこの「ニュータウン展」でできただろうか。

足湯イベントもあるよ！

と き／4月26日、5月10日、17日、24日、31日の水曜日午後0時30分～1時30分。
ところ／ガーデンモール南千里（阪急南千里駅）。費用/200円。
申込み／はがきまたはFAXに、参加希望日、住所、名前、電話番号を書いて、博物館へ。（先着30名）

喫茶「ミリカ」会期中の土・日曜日、祝日にオープン。

営業時間 午後1時～5時

市民委員さんとボランティアさんのお店で、ティータイムをどうぞ！

たくさんのご来店、お待ちしております。

場所＝博物館2階ロビー前

行事案内

千里ニュータウン展 —ひと・まち・くらし—

4月22日(土)～6月4日(日)

休館日—月曜日

市民が創り上げた市民のための展覧会。
※楽しくて多彩なイベントは2・3ページをご覧ください。

歴史講座

6月17日(土)「神像彫刻
—あらわされた神々の姿—」

学芸員 滝沢幸恵

6月24日(土)「源平の争乱と吹田」

学芸員 池田直子

7月1日(土)「^{かまど}竈形土器について
—^{ごたんじま}五反島遺跡出土遺物を中心に—」

学芸員 高橋真希

※歴史講座はいずれも14時～15時30分・申込不要

博物館トーク

6月18日(日)「古文書が語るもの—宗門改帳—」

学芸員 田口泰久

7月16日(日)「絵巻にみる子どもと遊び」

学芸員 池田直子

8月20日(日)「考古学入門—土器のみかた—」

学芸員 高橋真希

9月17日(日)「触覚鑑賞へのいざない

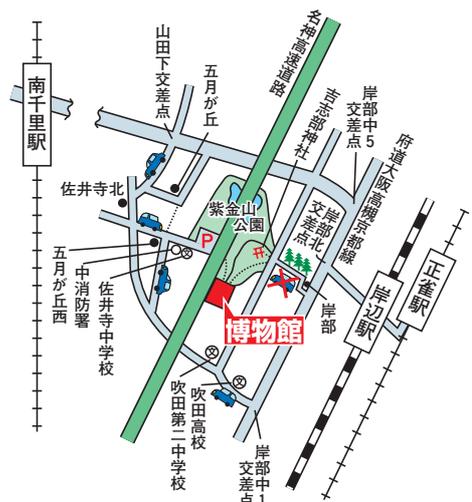
—仏像・和楽器・玩具—」

学芸員 滝沢幸恵

※トークはいずれも14時～15時・申込不要

交通案内

- JR岸辺駅下車徒歩25分
- JR吹田駅・阪急吹田駅から
桃山台駅前ゆき、山田樫切山ゆきバス「佐井寺北」
下車徒歩10分
千里中央ゆき、阪急山田ゆきバス「岸部」下車徒歩10分
- JR吹田北口から
五月が丘南ゆきバス「五月が丘西」下車徒歩7分
- 阪急南千里駅から
JR吹田ゆきバス②、③系統「佐井寺北」下車徒歩10分
- 車でのご来館は五月が丘・佐井寺方面からお願いします。



●開館時間
午前9時30分～午後5時
●休館日
月曜日、祝日の翌日
12月29日～1月3日
<http://www.suita.ed.jp/hak/>

吹田市立博物館だより 第26号 平成18年(2006)3月31日発行
吹田市立博物館 〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号
TEL.06(6338)5500 FAX.06(6338)9886

この冊子は、4000部作成し1部あたりの単価は42円です。

R100

古紙配合率100%再生紙を利用しています。
限りある資源を大切にしましょう。